

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：35413

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2014

課題番号：24660028

研究課題名(和文) 未来の育メン育成プログラムの構築と拠点形成に関する研究

研究課題名(英文) Study on construction of the Iku-men training program for college students.

研究代表者

梅田 弘子 (UMEDA, Hiroko)

広島国際大学・看護学部・講師

研究者番号：50441986

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：近年の男性(父親)の家事・育児参加の意義・必要性を踏まえて、将来、父親・母親になる可能性をもった大学生の男女に、男女が親としてともに仕事・家事・子育てをすることが当然であるという考え方を醸成することを目的として、学生主導型「ひろしま未来の育MENプロジェクト」を設立し活動した。大学生を対象とした未来の育メン育成プログラムとして、知識の獲得、実体験に基づく学習、大学生個々の結婚や育児への受容性の確認と具体的なキャリア設計、ピア学習、の四点が挙げられた。

研究成果の概要(英文)：The participation of men (fathers) in housework and child care has been significant recently. We have organized a student-led project, the "Hiroshima Future Iku-men Project," aimed to increase student's awareness that both men and women will work, do housework, and take care of children as a matter of course. We think this idea should be promoted during the student's college years. This Iku-men training program for college students promotes (1) the acquisition of knowledge, (2) learning based on real experience, (3) the confirmation of acceptance of individual marriage, child care, and concrete career design, and (4) peer learning.

研究分野：小児看護学・家族看護学

キーワード：大学生 育メン 親準備性 子育て

1. 研究開始当初の背景

今日、父親の家事・育児参加を増やすことは我が国の政策課題のひとつである。厚生労働省は、男性の育児休業取得率を現状の1.72%から2020年度には13%に上げることを目標に掲げ、ワーク・ライフ・バランス（仕事と家庭の調和）の実現に向けて、「育メンプロジェクト」等様々な取り組みを支援している。これらの背景には、第一に、女性の社会進出に伴い子育て中に就労する母親が増加したこと、第二に、少子化対策の観点から就労する母親の育児負担を軽減し、追加出産意欲の減退を防ぐ必要性があること、第三に、父親の子育て参加が子どものwell-being向上に寄与していること、第四に、若い男性が仕事優先から仕事と家庭の両立を求めるライフスタイルへと変化していること、が考えられている(松田、2006)。2009年の育児休業法の改正以降、男性が育児休業を取得することは法制度上容易になったものの、依然として育児休業取得率が伸び悩む背景には、「家事や育児は女性の役割」という固定的な意識からくる、男性が育児をすることへの抵抗感が、男性本人、職場の雰囲気、さらには社会一般に根強く存在していることが考えられる。以上のことから、現在育児中の男性の育児参加を推進するアプローチが重要なことは勿論であるが、それ以上に、将来、父親・母親になる可能性をもった青年期の男女に、男女がともに仕事・家事・子育てをすることが当然であるという価値観を醸成することが極めて重要であると考えられる。これまでも、「親準備性」というキーワード等で、思春期・青年期を対象として、子どもに関すること、親になることへの意識等について多くの調査研究が蓄積されてきた。しかし、これらは意識調査に留まり、育児参加への意欲や意識を高めるための介入や組織形成に至ったものは、NPO法人等で散見する程度である。さらには、身体的に成熟しているが、社会的に独立しておらず、職場の文化や価値観に影響をうける前の大学生を対象とした、未来の育メン育成プログラムを構築し、大学にその拠点の形成を試みた研究は見あたらない。

2. 研究の目的

本研究の目的は、大学生を対象とした、未来の育メン育成プログラムを構築し、大学にその拠点を形成することである。本研究における「育メン」とは、「育児を積極的に率先して行い、育児を楽しみ、育児を通して成長する男性」と定義する。具体的には、調査結果に基づいた育メン育成プログラムの作成、大学における学生組織の形成、育メン育成プログラムの実施と評価を行う。最終的に、大学における、未来の育メン育成プログラムの構築方法と拠点形成に必要な要素・取り組みについて明らかにする。

3. 研究の方法

初年度(平成24年度)は、大学生を対象とした、家事・子育てに関するアンケート調査の実施・分析を行い、分析結果に基づいた育メン育成プログラムを企画・立案する。専門家、育児経験者、学生をメンバーとしたプロジェクトを立ち上げ、調査結果の特性を踏まえて、プログラムの内容と方法を具体化し、準備を行う。2年目以降(平成25・26年度)は、大学生を対象とした育メン育成プログラムの実施と評価を行う。学生参加・体験型のワークショップを予定しており、実施後の意識調査によりプログラムの効果を測定する。加えて、これまでの活動内容、成果をWeb上で公開するとともに、「ひろしまイクメン応援キャンペーン」に参画する。さらに、学生組織、(仮)未来の育メン育成隊とともに、近隣の大学に活動内容報告リーフレットを配布し、広報活動に取り組むことで、各大学における育メン育成についての関心の喚起と大学における拠点形成を推進する。

4. 研究成果

(1)平成24年度

拠点づくり：3学部26名の学生が集まり、学生・教職員協働で「ひろしま未来の育MENプロジェクト」を立ち上げた。プロジェクトのロゴマーク・Vision・Mission・Valueを明確にし、広報活動用の様々なものを作成した。Webサイト(Face Bookを含む)(<http://www.miraiku.net/>)を立ち上げ、リアルタイムで活動内容を発信できるよう整備し運用した。研究者の大学の広報部門に働きかけ、活動をその都度大学HPで公開してもらい、周知をはかった。

家事・子育てに関する大学生への調査では、男女ともに20年前よりも大幅に将来の家事・育児分担を配偶者と等分で行うという考えが伸びてはいるものの、家事・育児内容については男子よりも女子の方が「したい」「できる」と思う意識が高い傾向であった。また「まだ先のことでイメージできない」との認識が高かった。また、結婚や育児に対する考え方は、自分の親の考え・行動や両親の関係性から影響を受けていることがわかった。

プロジェクトの企画として、プロジェクトメンバーが育メンの自宅訪問・取材を行い、その結果をパネルにした「育MEN写真館」を4回開催(来場者数419名)した。大学生は実際の育児や家事の話当事者から聴取することや育児を体験することで、将来の結婚や育児について考える機会となることが示唆され、体験型の企画の必要性が示された。

2013年2月17日に広島県の育メン休暇を応援する番組、TSS「ひろしま満点パパ」で「若い世代が学ぶ育メン休暇！」として取り上げられ活動を広島県全域に周知する機会を得た。

(2)平成25-26年度

平成24年度に立ち上げたプロジェクトの学

生メンバー、研究者、分担者。連携研究者とともに、将来の家事・育児に関わる学習の場として以下の企画を開催した。

大学生が将来の家事・育児に興味を持てるようになることを目的とした講座・イベント：食育講演会、キャラ弁教室

大学生が将来の家事・育児についての知識を得ることを目的とした講演・講座の聴講：日本小児科学会市民公開講座(広島国際会議場)「みんなで育てよう、子どもの未来～世界平和はイクメンから～おいしい! 広島からの発信」(研究代表者：梅田弘子パネリスト)、 「ファザーリングジャパン全国フォーラム in 北九州」への参加、「広島 婚育基礎講座」への参加

本プロジェクト及び育メンの周知活動：育MEN・育ジィへの取材とパネル作成・展示を県内各地域で行った(2年間7回)。活動リーフレットも作成し、大学内外(大学生や一般市民)、行政(男女共同参画部門、子育て支援部門)に配布した。

大学生の親準備性を高めるための講座の開催：「未来のパパママ講座」を行政と連携し共同開催した。企画段階から大学生の希望を取り入れ、結婚教育に関する講義、子育て親子とのふれあい体験、大学生同士のディスカッションの内容とした。

以上～を通じて、来場者や参加者からは将来の育児のことだけでなく、現在の食生活が未来に繋がっていること、将来家庭をもつための経済面での準備や育児中の親や祖父母世代の思いなどを知ることによって将来の結婚・育児等をイメージすることにつながったとの反応が得られた。更に、取材を通じて育児中の父親へのインタビュー調査の結果、積極的に育児に参加している父親が育児をする上で大切にしている思いとして、【子どもへの愛情】【妻への愛情】【男女平等の価値観】【親としての自覚】の4つのカテゴリーが抽出された。また、共働き家庭の父親と母親がお互いに対して感じていることとして、父親は母親との育児・家事の分担ができるだけ半々になるように気を遣い行動していた。一方で母親は父親に育児・家事を任せることが出来ない状況があることが明らかになった。「未来のパパママ講座」参加学生は、ふれあい体験により、子どもをかわいいと感じ、親の子に対する愛情や責任意識を感じ取っていた。また、講座全体を通して、結婚すること親になることについて、大学生の頃から具体的に考えていくことの重要性を認識できていた。

(3)総括

3年間の研究・活動を通じて、大学生が主体的に親になる準備性を高めるための様々な取り組みを行った。大学生は、結婚・育児を遠い先のこととして考えており、学業や就職の方が優先順位が高くなることはやむを得ない。本活動においても、プロジェクトメンバーの学生の士気は高く、積極的な活動展

開で拠点づくりは概ねできたと考えている。一方で、プロジェクトメンバー以外の大学生は本プロジェクトへの関心が低く、参加者の男女比は、女子の方が多く男子学生への啓発は十分にできなかった。今後、結婚・育児への関心が低い大学生に対しては、「未来のパパママ講座」に限らず、卒業後の人生設計という大きなテーマの中の一つとしての結婚・育児という視点から、ワークライフバランスを踏まえた講座づくりを企画するなどの工夫が必要であると考えられた。大学生を対象とした、未来の育メン育成プログラムについては、知識の獲得：大学生が、現在の日本の人口構造や今後、結婚・子育てに関する社会の現状や目的・意義等、結婚・子育てについての知識を得ることができる内容。実体験に基づく学習：育メン・育ジィへの取材や子育て家庭へのインターンシップ、子育て親子とのふれあいを通して結婚・家事・育児の実際を知ることができる。大学生個々の結婚や育児への受容性の確認と具体的なキャリア設計。ピア学習：大学生同時がディスカッションを通じて、未来の恋愛・結婚・育児について考えを深めていく、の4点が挙げられた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕

1. 梅田弘子、中岡博美、岡川春恵、三並めぐる、梅田貴土、島谷智彦：大学生を対象とした親準備性教育への取り組み-「未来のパパママ講座」の開催、広島国際大学看護学ジャーナル、査読有、12(1)、25-33、2014

2. 梅田弘子、梅田貴土、長沼貴美、堀田実愛、寺重隆視：地域における学生主導型育MEN活動推進への取り組み-ひろしま未来の育MENプロジェクト、広島国際大学看護学ジャーナル、査読有、10(1)、27-32、2012

URL : harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hirokoku-u/file/12110/.../412.pdf (計2件)

〔その他〕

1. 梅田弘子：高校生のための、今からできるキャリアデザイン～ワークライフバランスの実現に向けて～、東広島市男女共同参画推進事業「キャリアデザイン講座」、招待講演、2014

2. 梅田弘子：第116回日本小児科学会特別講座市民公開講座「みんなで育てよう、子どもの未来～世界平和はイクメンから～おいしい! 広島からの発信～」シンポジスト(広島国際会議場フェニックスホール)、招待講演、2013

3. 梅田弘子、田中彩歌、広末彩乃、他6名：未来の育MEN育成隊による呉市の育メン活動推進に関する研究、呉地域オープンカレッジネットワーク会議平成24年度地域活性化研究報告書、8-9、2012

4. 梅田弘子、田中彩歌、広末彩乃、他6名：社会人基礎力育成グランプリ2013中国・四

国地区予選大会準優秀賞，プロジェクト名：
僕らがつくる子どもたちの未来～ひろしま
未来の育 MEN プロジェクト～，日本経済新
聞社主催，経済産業省共催 2012 .

5 .ひろしま未来の育 MEN プロジェクト Web
サイト (Face Book を含む) : [http://www.
miraiku.net/](http://www.miraiku.net/)

6 . TSS 「ひろしま満点パパ」 : 19 : 若い世代
が学ぶ育メン休暇 ! [http://www.tss-tv.co.jp
/manten_papa/](http://www.tss-tv.co.jp/manten_papa/) .

(他、中国新聞・大学新聞掲載 3 件、計 9 件)

6 . 研究組織

(1)研究代表者

梅田 弘子 (UMEDA, Hiroko)

広島国際大学・看護学部・講師

研究者番号 : 50441986

(2)研究分担者

梅田 貴士 (UMEDA, Takashi)

広島大学・教育学研究科・准教授

研究者番号 : 40451679

(3)研究分担者

堀田 実愛 (HOTTA, Mie)

広島国際大学・看護学部・助教

研究者番号 : 90638719

(4)研究分担者

光盛 友美 (MITSUMORI, Yumi)

広島国際大学・医療福祉学部・助教

研究者番号 : 20461329

(5)連携研究者

長沼 貴美 (NAGANUMA, Takami)

創価大学・看護学部・教授

研究者番号 : 80432714

(6)連携研究者

寺重 隆視 (TERASHIGE, Takashi)

広島国際大学・工学部・教授

研究者番号 : 80352045